

# 「戦闘」他の日報にも

## 南スーダン「抗争悪化注意」記述も

南スーダンの国連平和維持活動（PKO）をめぐり、陸上自衛隊の派遣部隊

との間で戦闘が生じた模様。細  
の抑制を呼び掛けている模様  
udan Tribune, Radio Tamazu  
間の戦闘により、双方合わせ

の2016年7月9日の「日報」に、首都ジュバの様子について「戦闘」という表現があることが新たにわかった。防衛省が13日、同月7～9日の日報を公表。同省が今月7日に発表した日報と同様の表現があった。派遣部隊の日報をめぐっては、ジャーナリストが「南スーダン派遣施設隊が現地時間で2016年7月7日から12日までに作成した日報」を開示請求したが、昨年12月、「廃棄」扱いで不開示となった。その後、防衛省は電子データが見つかったとして公表。

「戦闘」という表記があったため、現地情勢がPKO派遣要件を満たしていないなどと野党が追及。文書の取り扱いについても問題視されている。新たな日報は、民進党の要求を受けて同省が13日に開示。16年7月9日の日報では「8日夕、ジュバにおいてSPLA（大統領派）とSPLA-iO（前副大統領派）との戦闘が生じた模様。細部経緯は不明」と記載。さらに「（現地報道によると）戦闘により、双方合わせて約150名の死傷者が発生している模様」「（両派の）抗争は抑

制されておらず、更なる抗争の悪化に注意が必要」との記述もあった。

日報に記載された「戦闘」の意味については、稲田防衛相は国会で「法的な意味の『戦闘行為』ではない」と説明している。

また防衛省はこの日、中谷元防衛相（当時）に報告した南スーダンの情勢資料「衝突事案の概要」も一部開示。同資料には「激しい銃撃戦」「激しい爆発音」などの記述があったが、日報記載の「戦闘」はなかった。民進側は「意図的に『戦闘』との言葉を抜き、大臣に報告したのではないか」と追及。同省統合幕僚監部の担当者は「（法的意味の）『戦闘』と（混同しないように、あえて『戦闘』という言葉は使っていない。ごまかす意味はない」と釈明した。（相原亮）